

特別
付録

濡らして冷んやり!!
クーリングメッシュタオル

夏のキャンペーン特大号
第1弾

9
September
2019

https://option.tokyo

Real Tune &
Exciting Car Magazine
オプション

OPTION
2019年9月号(毎月26日発売)
7月26日発売
第39巻第9号 通巻512号

option

option
Real Tune & Exciting Car Magazine

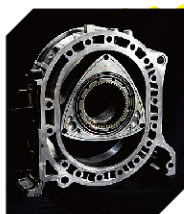
失敗しないエキゾーストチューンとは?

魅せる、聴かせる、
走らせる!!

オレ流 マフラー選び

あるある
オーナー体験談!!

RX-7&ロータリー 編



初心者のための
走行会入門ガイド

オシャレな走り屋を目指せ!!
快適ドライビングスニーカー

日本全国ショップ&ボーナスフェアガイド
スイフトタービン&ECUチューン実例
S660ミーティング参加車レポート

編集部員のホンネ試乗!!

GT-R 2020



新型スープラ



西のシビック!!



東のハチロク!!

web option
EXCITING CAR WEB MAGAZINE
https://option.tokyo



最新スワップ対決!!
令和のネオ旧車

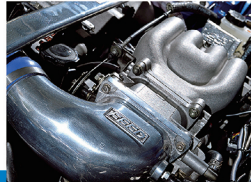
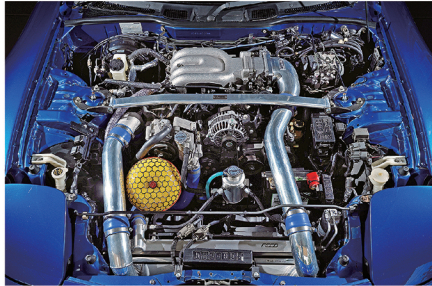


有機的で美しいスタイルと意のままに操れる心地よさ

美しいブルーメタリックに彩られたマシは、元々はトップレベルサーを目指し、グーペラのGT-RやF-3などで活躍した萩原さんの愛車。

現在は、アドバンス・ホイールのデザイナーであり、プロデューサーとしてチューニング業界では知らない人はいないと言っている存在だ。

愛車のRX-7は2016年に各部をリフレッシュすると同時にエンジンとスタイルも自分好みにチューニングや攻撃的とも言えるエアロスタイル、約450Psのチューンドロータリー



Wheel

ホイールは萩原さん自身の作品でもあるアドバンスレーシングRS-RFプロダクト製の255/30R1904本番。

Pick UP Cover Machine



横浜ゴム ホイール企画デザイン CMP 萩原さん

「ロータリーのネガな部分も知っていて、それでいて絶対に嫌にならないRX-7。ここまでのクルマはきっとこの先も現れないと思うんですよ。だから持ち続けたい、乗り続けたい。クルマ好きにはおかってもらえる気持ちだと思いますよ。ところで、私の仕事はホイールを作ること、セールスすることですが、私自身も同様の情熱で愛車に接するのびたちに変えられるブランドにしていきたいですね! よろしくお願ひいたします」

Engine

リアリフトアップ時に連動するタービン、TO49に含ませて作られたエンジンはブリヂストンエンジニアリングのサイドポート、スベックも出力は約450Psだという。藤田エンジニアリングの魔王号をモチーフにアレンジを加えた仕様だ。

Interior



ロールケージを組み込み、安全性を確保しつつボディ剛性を高める。走りにはうるさい(17)萩原さんの懸念だけに、バランス感覚も大切にしたチューニングが施される。



は、藤田エンジニアリングの手によって仕上げられたものだ。ところでそんな萩原さん、実はホルンエのGT-3などスベックナルなスポーツカーも所有するが、新車から乗り続けているRX-7は、これまで乗り継いだどんなスポーツカーでもかかわない魅力を秘めているという。「もともとプロダクションレーシング(当時の富士フレッシュマン)を始めたのがRX-7。当時はSA22C。そんな意味でも私にとってロータリーの存在は特別ですがそれだけではありません。電子制御の進んだ最新モデルのスポーツカーは、意図に反する制御が感性和る挙動を生むことが多いですが、RX-7、特にFD3Sは完全に私の感性和とシンクロして走ってくれる。だから新車から乗り続けてきたこのFD3Sを、一生乗り続けようと思ひのスペックに仕立て直しました。ガレージで大切に保管していますが、仕事の休みの日にはこのFD3Sで走り出かけることも多いんですよ」と、萩原さんはクルマの話になると目を輝かせる。ちなみにデザイナーでもある萩原さんの目から見て、スタイリング的に優れているFD3Sに勝るデザイナー性のスポーツカーはないと申す感じだ。いかにいって、今となっては決して最新の性能というのではないが、乗るものを見るも驚かすロータリーとRX-7。長い将来にわたってもその人気は引き継がれていくことだろう。

YOKOHAMA WHEEL HAGIWARA RX-7 [FD3S]

YFC ☎03-3431-9981
http://www.yokohamawheel.jp



操る刺激と眺める楽しさ オトコを虜にするRX-7の魔性



Style

ボディキットも基本は藤田エンジニアリング製でやはり魔王号をモチーフとする。ただし、リアフェンダーに関しては、経路を受けた海外のイベント出展車両からヒントを得た形状のエアロパーツを仕上げていた。以前はGTウィングを装着していたが、現在はストリートっぽいスタイルということで、ロケットパニアスダックテール型エアロウィングを装着。



